

-地域と大学を結ぶ- りえぞん No. 3

編集発行：武庫川女子大学 教育研究社会連携推進室

充実する本学の地域連携活動

本学では、社会連携の活動が次第に数を増し、また継続的な活動も行われている。その中の際立った活動の概要を以下に紹介する。

教育学科：本学の学生たちが中心となって進める団地再生を目指すプロジェクト、「またあしたプロジェクト」でクリスマスワークショップを開催。

2017年12月17日、教育学科佐野ゼミが企画した「クリスマスおはなし会&ミニツリー作りワークショップ」が芦屋浜高層団地の集会所で開催された。教育学科の3年生が子どもたちに絵本の読み聞かせや、松ぼっくりを使ったクリスマスツリーづくりのワークショップを行った。

この集会所は芦屋浜自治連合会、兵庫県住宅供給公社、武庫川女子大学がコアとなり、こどもたちを見守り様々な世代が集まれる場作りを進める「またあしたプロジェクト」で改修されたもの。改修の際には生活環境学科の学生たちが関わっている。



本学 HP より

日本語日本文学科：学生らが21か国からのゲストを招き日本語で多文化交流。

2018年1月6日、日本語日本文学科が21か国からのゲストを招いた「日本語による多文化交流活動」を開催した。ゲストは昨年9月に来日し、国際交流基金、関西国際センター(大阪府泉南郡田尻町)で日本語研修を受けている各国外交官、公務員、研究者、計21人。本学からは「異文化間コミュニケーション」「日本語教材研究I」の履修学生を中心に、Club IEO(本学の国際交流ボランティア団体)メンバーも加わって、約30人の学生が参加した。

アイス・ブレーキング・ゲームや、日本のお正月遊び・行事をグループに分かれて体験した後、ゲストがスライドやパンフレットを駆使して各々の国を紹介した。



本学 HP より

情報メディア学科：大森ゼミ生が、大学生による「OSAKA 観光まちづくりコンテスト 2017」で最優秀賞と準優勝を受賞した。

情報メディア学科・大森いさみ准教授ゼミの学生2グループが、2017年12月19日に開催された大学生による「OSAKA 観光まちづくりコンテスト 2017」で、最優秀賞の大阪観光局長賞と準優勝の大阪府知事賞を受賞した。

コンテストには18大学45チームが応募し、1次選考を通過した7大学10チームがプレゼンテーションに臨んだ。

大阪観光局長賞に輝いたのは、3年生の山崎未裕さんと池之桃子さんの企画「恋ストーリーでつなぐ旅～若者を堺に」。「堺は観光地としての認知度が低く、古墳以外の場所まで足が向かず、巡ってほしい場所があるが巡ってもらえていない」という課題に対して、堺の中で巡ってほしい場所の共通点を探し、それらの場所とストーリーを結び付けて観光することを考案。ガイドマップを作成し審査員に配布、プレゼンテーションを行った。

大阪府知事賞を受賞したのは2年生の櫻井穂乃花さん、篠原沙織さん、丸尾奈菜美さん、石川真帆さん、山崎蓮珠さんのグループの「フルーツ狩りで満足してる?」。春夏秋冬のフルーツが楽しめる河内長野で、ジャムづくりやドライフルーツづくりなどの体験や、できあがった加工食品をお土産として持って帰って話題にする『事(こと)消費』で地域の活性化を目指す。



本学 HP より

健康・スポーツ科学科：穂原ゼミによる商品開発 スポーツ・タイツ

健康・スポーツ科学部の穂原寿識講師ゼミと魔法のタイツ株式会社(本社:埼玉県)の産学連携で開発されたスポーツ・タイツ「魔法のレギンススポーツモデル」が2017年12月15日、楽天市場で発売された。

穂原ゼミと魔法のタイツ株式会社は2016年9月から開発を開始。同社の主力商品である脚が細く見えるコンプレッション(着圧)・タイツ「魔法のタイツ」を、ゼミ生17人が実際に一定期間着用し、太ももの着用効果測定を行い、商品やパッケージの改善提案も行った。2017年には、学生らが商品ジャケットの制作に携わり、モデル、スタイリング、撮影、デザインを手がけた。



本学 HP より

スポーツ・コスメ

健康・スポーツ科学部の穂原寿識講師の3年生のゼミ生8人が、産学連携の一環で「スポーツ・コスメ」を伸栄商事株式会社(大阪市)と共同で開発を進めている。2017年10月から開発を始め、毎回ゼミの時間に伸栄商事の担当者が来学。アンケート調査やスポーツ経験者であるゼミ生自身の経験をもとに議論し、工場見学、コスメ市場での現地調査を経て、2018年夏ごろの商品化を目指す。消費者やプロダクト、マーケティングを中心に学生と企業が共に考えることで、実学的な学びへ繋げている。



本学 HP より

司書課程の学生：附属幼稚園の園児を交えて「絵本読み聞かせ会 セラピードッグといっしょに」が中央図書館で開催された。

武庫川女子大学附属幼稚園の園児がセラピードッグに読み聞かせを行う「絵本読み聞かせ会 セラピードッグといっしょに」(日本レスキュー協会、武庫川女子大学附属図書館共催)が、2018年2月6日中央図書館のマルチメディア・ラウンジで開催された。

この催しは武庫川女子大学司書課程で開講している「図書館サービス特論」の一環で行い、今回で6回目の開催となる。参加者は武庫川女子大学附属幼稚園の園児18人とそのきょうだいや保護者で、園児たちは持ち寄った好きな絵本を3頭のセラピードッグに読み聞かせた。司書課程で学ぶ学生18人も参加し、司会や読み聞かせのサポートを行った。



本学 HP より

生活環境学科・生活造形学科：附属幼稚園で「キッズドリームウェアファッションショー」を開催。園児たちが大学、短大の学生に作ってもらった衣装を着てランウェイを歩いた。

附属幼稚園の園児たちが大学、短大の学生に作ってもらった衣装を着てランウェイを歩く「キッズドリームウェアファッションショー」が2018年2月21日、附属幼稚園遊戯室で開催された。

「キッズドリームウェア」は、大学生活環境学科と短大生活造形学科のアパレルコースの学生を中心に、毎年、有志が取り組んでいる幼稚園と大学の連携事業。今年度は幼稚園の5歳児34人が「特別な日に着たい服」をテーマにデザイン画を描き、学生が園児1人を1~3人で担当して衣服に仕立てた。



本学 HP より

教育学科：西本ゼミの学生が子育て応援冊子を制作

教育学科西本望ゼミと阪神電車が、子育て中の家族を対象にした冊子「KID 'S SMILE 2018」を共同制作。制作に関わった学生らが 2018 年 2 月 22 日、西宮市役所で記者発表を行った。冊子は 3 万部作成し、同年 2 月 23 日から阪神電車の主要駅等で無料配付する。この冊子制作は西本望ゼミ(幼児教育学)の学生たちが、幼児教育の知識や専門性を生かし 2011 年から毎年取り組んでいる。

冊子には、阪神電鉄沿線の公園や公共施設の紹介、また親子のふれあい遊びや手作りおもちゃ、身近な自然でできる季節の遊びを掲載している。



本学 HP より

日本語日本文学科：3 年生が神戸のフランス菓子店とコラボして制作していたリーフレットが完成。

日本語日本文学科の 3 年生の学生(故 平井尊士 教授ゼミ)が 2018 年 2 月 12 日、「パティスリー モンプリュ本店」(神戸市中央区)とコラボして制作したリーフレットの完成品を、シェフの林周平さんに手渡した。リーフレットは 3 種類あり、同店の店頭にも設置され、来店者が自由に閲覧し持ち帰ることが可能。

リーフレット制作プロジェクトは 2017 年 6 月下旬から始動。パティスリー モンプリュ本店で購入してきたフランス菓子を実際に食べて感想を出し合い、プロのカメラマンの指導を受けながら制作を進めた。



本学 HP より

健康・スポーツ科学科：学生 11 人が、フィリピンのセブ島でダンスを通じた国際貢献活動を行っている。

健康・スポーツ科学科の学生 11 人が 2018 年 2 月 17 日から、音楽教育を通して貧困地域に住む子どもたちを支援している NPO 法人セブンスピリット(代表 田中宏明氏)の協力を得て、フィリピンのセブ島でダンスを通じた国際貢献活動を行っている。セブンスピリットはセブ島の学校や地域へオーケストラによる演奏を届けるプロジェクトを主催。今回そのプロジェクトのダンスチームとして、本学学生は現地の子どもたちにダンスの指導と、振り付け、構成を行っている。

また、セブ島の学校はスポーツ用品が生徒数に比して不足しているため、本学で不要になったスポーツ用品を各学校へ寄贈。学生たちは寄贈したバスケットボールやバレーボールを使って、現地の子どもたちとスポーツを楽しんだ。この活動は、本学の「さらなる大学教育の質向上のための改善・改革実行プラン」の海外スポーツボランティアプログラムの開発(代表 松本裕史准教授)の一環として実施。



本学 HP より

情報メディア学科：武庫川女子大学×カツウラ化粧品 産学連携“SUPPIN PROJECT”の活動

西宮市内の中小企業と大学が連携し新商品開発やそのブランド化を図り、西宮のブランド産品創出を目指す事業「産学官連携による西宮ブランド産品創造事業」に採択された情報メディア学科の井上重信ゼミと株式会社カツウラ化粧品が行った産学連携の

取り組みについて、2018年3月9日に西宮市役所で活動報告会が行われた。

カソウ化粧品は新商品開発を行う企業として「スキンケアの大切さを伝えるためのプロモーション施策及び若年層の顧客を獲得するための施策」を井上ゼミと検討。井上ゼミの学生は、実際の消費者やターゲット層のインサイトを探り、仮説検証したうえでクローズアップしていく課題を考え、企画立案を行った。企画した商品は文化祭で販売され、文化祭当日会場は盛況だった。

指導教員の井上重信先生は、西宮市に提出した報告書の中で「担当するゼミ生はもちろんのこと、ゼミ生全員が実際の企業のマーケティング活動の一部に関わる素晴らしい経験ができたことから多くの学びを得ることができ大きな自信を持ったと指導教員として感じている。今後、社会に出た時にこの経験から学んだことが必ず役にたつものと確信している。」とコメントしている。

自治体等との連携

香川県土庄町との包括協定締結：

香川県土庄町と武庫川女子大学、武庫川女子大学短期大学部は2018年12月12日付で、地域社会の持続的な発展および教育研究の向上に資することを目的とした包括協定を締結した。協定の協力事項は「地域づくりに関すること」「教育・文化の振興に関すること」「人材の育成に関すること」「その他両者が協議して必要と認める事項に関すること」の四点。協定締結式は武庫川女子大学中央図書館2階グローバル・スタジオで行われ、三枝邦彦町長と糸魚川直祐学長が協定書を交わした。今後の連携活動の展開が期待される。



本学 HP より

兵庫県と本学による地域創生に係る包括連携協力協定締結：

兵庫県と武庫川女子大学、武庫川女子大学短期大学部は、2018年2月13日に地域創生に係る包括連携協力協定を締結した。締結式は県庁で行われ、井戸敏三知事と糸魚川直祐学長が出席。「将来にわたり活力ある地域社会を構築する『地域創生』の実現に向けて、次代を担う人材の育成、地域の活性化または交流の拡大、雇用の創出、産業・科学技術の発展、芸術・文化・スポーツの育成・発展などの連携を実施していく」という内容の協定を締結した。これにより兵庫県下での連携活動に対する県の助成も期待できる。西宮市や丹波市も兵庫県に含まれるので、今後のそれらの地域を含めた県下での学生のアクティブラーニングに資する連携活動の活性化にふって取り組んでいただきたい。



本学 HP より

西宮市「産学官連携による西宮ブランド製品創造事業」：

西宮市内の中小企業数社と本学教員で新商品を開発し、西宮のブランド製品の創出を目指す事業「産学官連携による西宮ブランド製品創造事業」に採択され、以下の企業と教員による産学連携が進められている。

内容については、当該企業の下承が得られ次第、追って報告する。

西宮市消防署と本学による、緊急消防援助隊受援時における活動拠点等に関する協定締結。

西宮市消防局と学校法人武庫川学院は2017年5月31日付で、「緊急消防援助隊受援時における活動拠点等に関する協定」を締結した。市内外において大規模な地震、台風、火災等により災害が発生した場合に、応急援護活動や人名救助活動に従事する緊急消防援助隊を受け入れる際の宿営場所や駐車場等の確保を行うものとなっている。緊急時に要請があった場合は、本学の総合スタジアム、サッカー・ラクロスコートが活動拠点として活用される。

アスレチックリエゾン ホームページを開設。

本学も参画している異競技連携組織「アスレチック・リエゾン・西宮」のホームページが2017年7月20日に開設された。

「アスレチック・リエゾン・西宮」は西宮市スポーツ推進計画に基づき、西宮市との協働によりスポーツを通じてまちづくりを行う。西宮市とつながりのあるアスリート個人やスポーツ団体等を中心に構成されており、トップアスリートが持つ、技術・経験・精神力を次の世代に繋げ、次なるトップアスリートの育成支援となるような活動をしている。この組織を通じて市民スポーツの活性化に本学も協力している。

「研究成果の社会還元促進に関する発表会」を実施

教育研究社会連携推進室が主催する「第2回 武庫川女子大学 研究成果の社会還元促進に関する発表会」が2018年2月16日(金)午後、中央図書館2階グローバル・スタジオで開催された。本発表会は研究成果を学内外に広く知ってもらい、実社会での活用につながる機会となることを目的としている。

関西大学の田中成典氏(総合情報学部 教授・先端科学技術推進機構社会空間情報科学研究センター長)による基調講演「関西大学における研究成果の社会還元の事例—社会空間情報科学『AI × IoT』の取り組み—」の後、「環境」、「健康」それぞれのテーマで8人の教員が研究成果を発表した。

会場には企業や自治体の関係者を含め約70人が参加。発表後、各発表者のポスターセッションが行われ、発表者が共同研究者や学生とともに、参加者と熱心に交流する姿が見られた。

本学教員の発表内容は以下の通り。

①新しい“きものドレス”の提案

生活環境学部 生活環境学科 助教 池田 仁美(代表)

②公的団地空き住戸でのコミュニティカフェ運営による正規家賃負担の可能性

生活環境学部 生活環境学科 特任教授 大坪 明

③伝統的住環境技術を用いた対話のしつらえ“キセカエハウス”の提案

生活環境学部 建築学科 講師 森本 順子・講師 宇野 朋子

④スポーツ・コスメにおける需要創造とスポーツ・タイツ開発の結果報告

健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科 講師 穂原 寿識

⑤ヨガを活用した住民コミュニティの形成と健康増進

生活環境学部 情報メディア学科 講師 井上 重信

⑥郊外住宅地での健康まちづくり

生活環境学部 生活環境学科 教授 三好 庸隆

⑦大学主導ではなく、市民主導の食育プログラムで地域貢献の可能性

国際健康開発研究所 講師 森 真理(代表)

⑧科学的根拠に基づく商品開発による食環境の改善を目指して

国際健康開発研究所 講師 森 真理

⑨スモールチェンジを促す階段利用促進サイン

健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科 准教授 松本 裕史

◆————◆
連絡先：本館5階 社会連携推進課 中村・荻田・鈴木
内線：6211、6213 / E-mail: shakai@mukogawa-u.ac.jp